

令和2年2月21日

令和元年度
日本リハビリテーション専門学校
第2回学校関係者評価委員会議事録

- 1 日 時
令和2年2月20日（木）15:00～16:00
- 2 場 所
日本リハビリテーション専門学校第二校舎3階
- 3 メンバー
委 員：高田、古川、山下、綿貫、三沢、近藤
事務局：二瓶、工藤、近野、篠田、鈴木、深瀬
- 4 会議内容
以下議題に添って進行

【議題】学校関係者評価委員会

- I. 過去5年（平成26年度～30年度）の国家試験合格状況について
- II. 過去6年（平成26年度～31年度）の学生募集状況について
- III. 日リハかんだ川会の実施状況について
- IV. 日リハ卒後教育講座の実施状況について

事務局 工藤

学校関係評価委員会を開始、まずは資料に添って説明。

<意見交換>

事務局工藤 当校は平成28年度から本格的に国家試験対策員委員会を設置して、それ以来はまずまずの結果は出ていると思います。国家試験合格率状況についてはいかがでしょうか。高田先生、大学と比較していかがでしょうか。

高田委員 国家試験の難易度が平易の時は良くなって、難しくなると悪くなっている印象がある。良かった時に少し気が緩むこともあるのではないかな。

事務局工藤 確かに少し厳しさが緩むということもあるのかもしれない。

事務局篠田 前年度難しすぎると、翌年は平易になる傾向はある。

高田委員 モチベーションをいかに均等化するかが課題かもしれません。

- 事務局鈴木 平成27年度は大きく問題の傾向が変わり、学生も付いていけずに合格率が落ちてしまったというのがあります。
- 高田委員 大学でもこの年度は悪かったが、翌年度は力を入れて持ち直したという記憶がある。国家試験対策の教員の学生管理が甘かったということもあったようだ。
- 事務局鈴木 学校として本格的な国家試験対策が出来ていなかった時代ではありました。また再実習の学生が多く、十分に国家試験の対策が出来なかったという事情もあったと思います。
- 事務局工藤 当校の実習生の質はいかがでしょうか。
- 六鹿委員 他の学校からも受け入れています、日リハの学生は学力的にも劣っていることもなく、むしろコミュニケーションがうまい学生が多いという印象です。
- 三沢委員 日リハ出身の卒業生が就職されていますが、非常に真面目で学びの姿勢を感じており、職場の人間も歓迎しております。実習については、必ずしも偏差値の高い学校の学生が良いということではなく、専門職になるということに対して高い意識を持つ学生が良いという印象がある。
- 綿貫委員 昔に比べると日リハの学生だけでなく、教えてもあまり響かないという新卒者が増えている印象はあります。
- 山下委員 日リハに限らず、こちら側の学生一人一人に対する接し方を考えないといけないと感じている。人によって感じ方が違うので、やり方も考えないという印象を持っている。
- 事務局工藤 第三者評価においては、社会貢献や卒後研修が大変重要となってきます。社会貢献組織「日リハかんだ川会」や卒後教育講座についてはいかがでしょうか。
- 高田委員 大学や専門学校においても、卒後教育に力を入れているところがあります。学生が主体になって行っているところもあるようだ。
- 事務局工藤 本日は貴重なご意見ありがとうございました。